

# 琉球大学学術リポジトリ

## [資料]琉球大学医学部附属病院泌尿器科における1974年-1994年の21年間の入院手術臨床統計

### メタデータ

言語:

出版者: 琉球医学会

公開日: 2010-07-02

キーワード (Ja):

キーワード (En): clinical statistics, in-patients, operations

作成者: 我喜屋, 宗久, 小川, 由英, 宮里, 実, 呉屋, 真人, 座波, 久光, 向山, 秀樹, 川上, 浩司, 嘉川, 春生, 米納, 浩幸, 盛島, 秀泉, 名城, 文雄, 興那覇, 博隆, 新里, 博, 島袋, 浩勝, 當山, 裕一, 翁長, 朝浩, 大城, 吉則, 外間, 実裕, 小倉, 秀章, 知念, 善昭, 謝花, 政秀, 宮里, 朝矩, 五十嵐, 正道, 比嘉, 功, 小山, 雄三, 秦野, 直, 早川, 正道, 大澤, ?, Gakiya, Munehisa, Ogawa, Yoshihide, Miyazato, Minoru, Goya, Masato, Zaha, Hisamitsu, Mukouyama, Hideki, Kawakami, Kouji, Kagawa, Haruo, Yonou, Hiroyuki, Monshima, Hidemoto, Nashiro, Fumio, Yonaha, Hirotaka, Shinzato, Hiroshi, Shimabukuro, Hirokatsu, Touyama, Hirokazu, Onaga, Tomohiro, Oshiro, Yoshinori, Hokama, Sanehiro, Ogura, Hideaki, Chinen, Yoshiaki, Jahana, Masahide, Miyazato, Tomonori, Igarashi, Masamichi, Higa, Isao, Koyama, Yuzo, Hatano, Tadashi, Hayakawa, Masamichi, Osawa, Akira

メールアドレス:

所属:

## 琉球大学医学部附属病院泌尿器科における1974年~1994年の 21年間の入院手術臨床統計

我喜屋宗久、小川由英、宮里 実、呉屋真人、座波久光、向山秀樹、川上浩司、嘉川春生  
米納浩幸、盛島秀泉、名城文雄、與那覇博隆、新里 博、島袋浩勝、當山裕一  
翁長朝浩、大城吉則、外間実裕、小倉秀章、知念善昭、謝花政秀、宮里朝矩  
五十嵐正道、比嘉 功、小山雄三、秦野 直、早川正道、大澤 炯

琉球大学医学部泌尿器科学講座

(1995年2月17日受付、1995年3月28日受理)

## Statistical analysis of the in-patients and operations performed at the Department of Urology, the University of the Ryukyus Hospital during the 21-year-period from 1974 to 1994

Munehisa Gakiya, Yoshihide Ogawa, Minoru Miyazato, Masato Goya, Hisamitsu Zaha,  
Hideki Mukouyama, Kouji Kawakami, Haruo Kagawa, Hiroyuki Yonou, Hidemoto Morishima,  
Fumio Nashiro, Hirotaka Yonaha, Hiroshi Shinzato, Hirokatsu Shimabukuro, Hirokazu Touyama,  
Tomohiro Onaga, Yoshinori Oshiro, Sanehiro Hokama, Hideaki Ogura, Yoshiaki Chinen,  
Masahide Jahana, Tomonori Miyazato, Masamichi Igarashi, Isao Higa, Yuzo Koyama,  
Tadashi Hatano, Masamichi Hayakawa and Akira Osawa

Department of Urology, Faculty of Medicine, University of the Ryukyus

### ABSTRACT

We studied statistically the records of in-patients and operations at the Department of Urology, the University of the Ryukyus Hospital from 1974 to 1994. 1) The total number of in-patients was 3,528, comprising 2,535 men and 993 women. 2) The prevalent diseases among the in-patients were renal calculi (12.4%), bladder tumor (10.7%), and benign prostatic hyperplasia (10.6%). 3) A total of 3,807 patients underwent surgery, including open surgery (54.9%) and endoscopic or non-invasive procedure (45.1%). 4) The common surgical procedures employed were TURP (transurethral resection of the prostate) in 336 patients, orchiopexy in 244 patients, and creation of A-V fistula in 242 patients. *Ryukyu Med. J.*, 15(2)45~47, 1995

key words: clinical statistics, in-patients, operations

### 緒 言

琉球大学医学部附属病院泌尿器科における21年間の入院手術臨床統計を報告する。

### 方 法

1974年1月から1994年12月までの21年間に琉球大学医学部附属病院泌尿器科に入院した3,528症例を対象として、年齢・性別頻度、疾患別頻度、手術件数およびその内容別頻度などを当科で行っている退院時総括に基づき調査した。なお、同一症例において2年度にわたる継続した入院は初年度のみに算入したが、年度別治療の算定は治療が施行された年度とした。また同一症例が同一年度に2回以上、あるいは別年度にも入院した場合はそれぞれ別個に算定した。

### 結 果

#### 1) 入院患者数・性別・年齢分布

21年間の入院患者総数は3,528名で、男性2,535名(71.9%)、女性993名(28.1%)で、男女比は2.6:1であった。1984年の新病院への移転を境に、移転前年平均133名から移転後年平均202名と増加していた(図1)。入院患者の年齢分布であるが、60歳以上の高齢者の割合が年々増加傾向にあり、特に1992年以降では入院患者の50%以上を占めていた(図2)。これは、後に述べる尿路結石患者の減少と尿路悪性腫瘍患者の増加による影響であった。

#### 2) 入院患者疾患別頻度

頻度の高い疾患は、腎結石(入院患者総数の12.4%)、膀胱腫瘍(10.7%)、前立腺肥大症(10.6%)、停留精巣(6.5

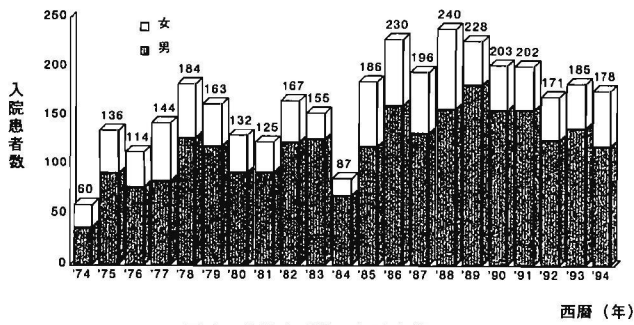


図1. 入院患者数の年次変遷

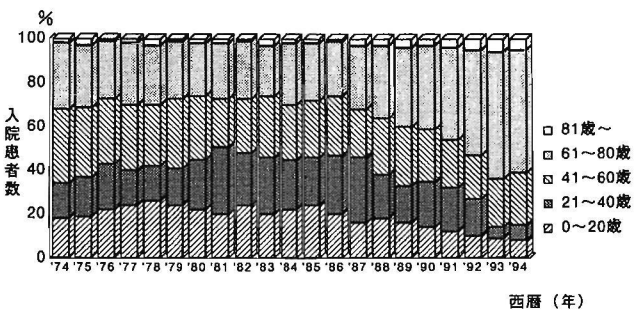


図2. 入院患者年齢分布の年次変遷

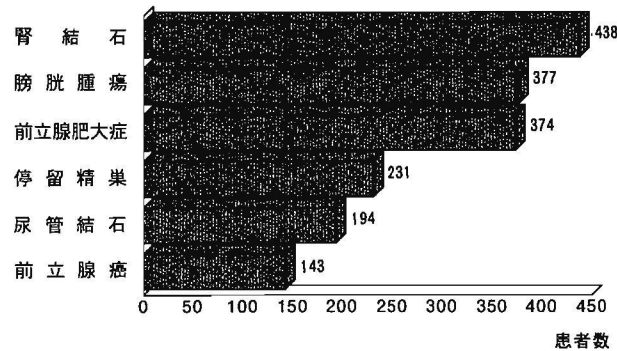


図3. 頻度の高い疾患

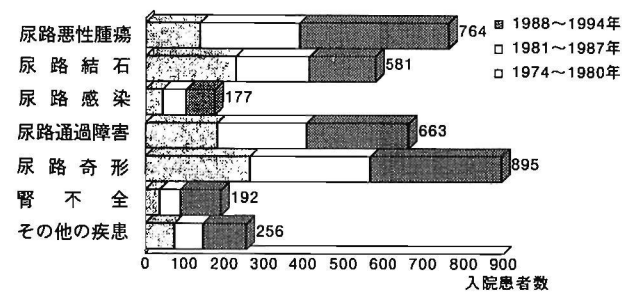


図4. 入院患者主要疾患の変遷

尿管結石 (5.5%), 前立腺癌 (4.1%) であった (図3)。入院患者の疾患を、尿路悪性腫瘍, 尿路結石, 尿路感染症, 尿路通過障害, 尿路奇形, 腎不全に大別して7年ごとに比較すると、尿路悪性腫瘍, 尿路奇形および腎不全の増加が認められた (図4)。腎不全の増加は、1987年より開始された腎移植術の影響によるものであった。尿路結石は、逆に減少傾向を示したが、これは後の手術統計で述べる結石治療方法の変遷に影響されている。増加傾向にある悪性腫瘍の詳細についてみると (図5)、特に腎癌, 膀胱腫瘍および前立腺癌の増加が顕著であった。これら腫瘍の増加が、入院患者の高齢化を反映していた。

3) 手術

次に手術統計である。当科の定期手術日は週2日であり、21年間に68種類、3,807件の手術を施行した。手術件数の年次変遷によると、1984年の新病院への移転を境に、移転前が

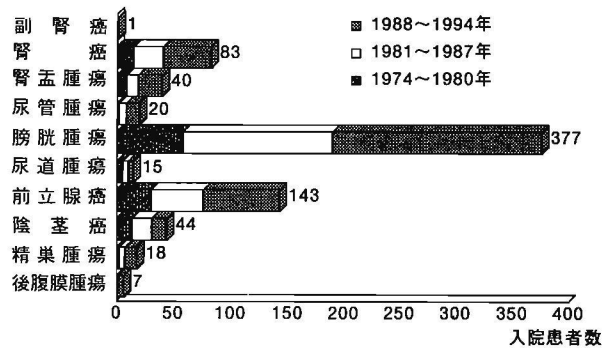


図5. 悪性腫瘍入院患者数の変遷

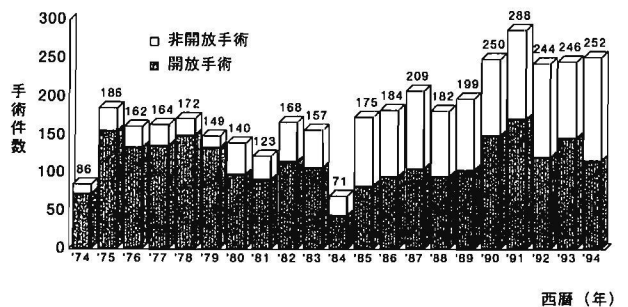


図6. 手術件数の年次変遷

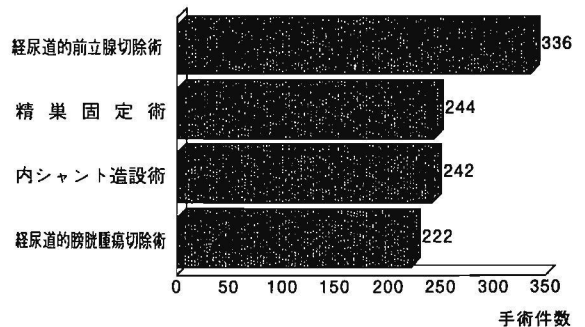


図7. 頻度の高い手術

年平均144件、移転後が年平均223件となっている(図6)。また手術内容を開放手術と、エンドウロロジーを中心とした非開放手術に分けて比較すると、1985年から非開放手術の割合が増加しており、近年ではその比は約1:1である。頻度の高い手術は、経尿道的前立腺切除術(以下TURP)、精巣固定術、内シャント造設術、経尿道的膀胱腫瘍切除術(以下TURBT)であった(図7)。結石治療の変遷については、1985年から経皮的腎尿管碎石術(以下PNL)および経尿道的尿管碎石術(以下TUL)が導入され、体外衝撃波碎石術(以下ESWL)も1988年から1989年の間に治験治療施行し、

1994年に新規導入している(図8)。腎・腎盂切石術、尿管切石術、膀胱切石術からPNL、TUL、そしてESWLへと変遷していった。悪性腫瘍手術件数は、悪性腫瘍入院患者の増加に伴い、その手術件数も増加傾向にあった(図9)。なお、これら症例の手術時平均年齢は、1974年から1980年が54.4歳、1981年から1987年が58.2歳、1988年から1994年が60.8歳であった。またこれら腫瘍患者の入院時平均年齢は、1974年から1980年が60.9歳、1981年から1987年が60.1歳、1988年から1994年が58.9歳で、近年は若年化の傾向を示した。手術時平均年齢の高齢化は、早期診断の発達、麻酔・全身管理および手術技術の向上などが、高齢者への積極的手術をすすめた結果によるものと推測された。腎不全入院患者の増加原因となった当科における腎移植術の実績は、図10に示す如くである。1987年に生体腎で開始された移植術であるが、屍体腎提供の増加もあり、毎年徐々に実績を伸ばしている。

考 察

1974年に保健学部を基盤にして開設された泌尿器科は、1980年の医学部発足そして1984年の新病院への移転を経て1994年現在、21年が経過した。県民の期待を担う地域医療の中心として、高度先進医療を行いうる施設としての充実が求められる今日、21年間の反省と今後を見極めるために、21年間の臨床統計を行った。当初、診療体系の確立に数々の戸惑いと混乱を生じた事も、はや遠い昔話となったが、今この統計を鑑みてもこの間の医療技術の進歩に伴う治療内容の変化には目覚ましいものがある。

入院患者における主要疾患分類別頻度において認められた尿路悪性腫瘍および尿路奇形の増加は、最近の全国的泌尿器科外科の傾向と一致するものである。しかし、当科で認められた腎不全の増加は全国的傾向と比較すると特異的である。この理由は当科が腎移植に力を注いでいる事によるところが大きい。最近の腎不全患者の原因疾患における糖尿病の増加も一因であるように思われる。糖尿病は全身疾患であり、より総合的な関連各科のある透析施設が求められるようになってきている。しかし県内には糖尿病合併症に対処しうる関連各科をもたない透析施設がかなり存在するため、そのような施設からの患者受け入れが増加している。この傾向は今後ますます加速されるものと思われる。

また、入院および手術における結石患者数、結石治療方法の変遷においては、他科にはみられない劇的な変化であろう。非観血的手術の導入が比較的早期に開始された泌尿器科独特の変化である。入院患者数は、観血的手術から非観血的手術へとという変遷に顕著に左右された。結石治療に限っては、大学病院といえども地域的基幹病院が完備されつつある現在、高度の医療設備なしには注目されるにいたらない事を物語っている。結石のみに関わらず、今後様々な泌尿器科的疾患においてこのような劇的な治療法の変化が予想されるが、大学病院が高度先進医療を行いうる施設としての充実が求められる反面、日本経済を取り巻く病院環境は幾多の矛盾を抱えているのも現実である。

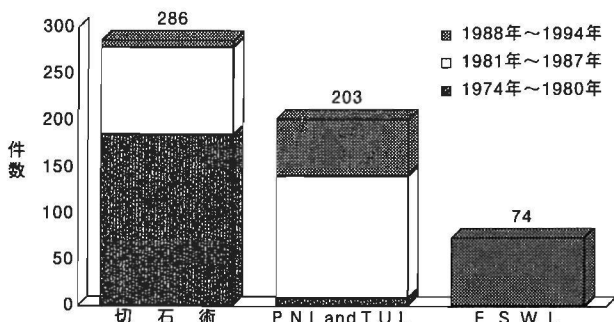


図8. 尿路結石治療の変遷

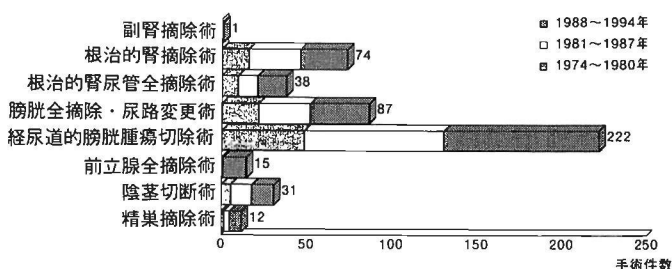


図9. 悪性腫瘍手術件数の変遷

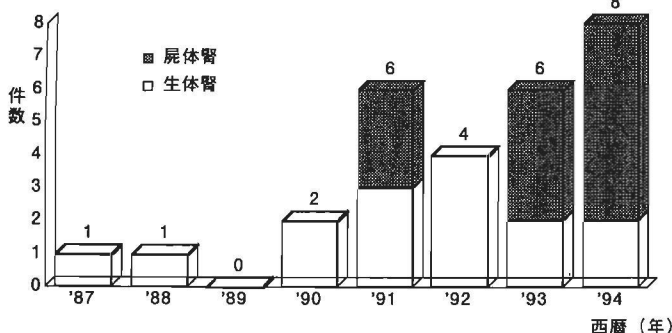


図10. 腎移植術件数の変遷